

推薦調書（実装部門）

表彰区分	「市」	推薦都道府県	島根県
地方公共団体名	島根県出雲市		
取組名称	“チームルピナス”（LINE を利用した情報共有）プロジェクト		
連携自治体、企業、団体等	出雲市内の医療・介護関係専門職団体等		
デジタルを活用した取組の概要（デジタルを活用した取組の全体概要と解決する個別課題の具体的内容）	（種類）	①	（左記が①の場合の分野） 医療
	<p>【デジタルを活用した取組の全体概要】</p> <p>○出雲市在宅医療・介護連携支援センター（愛称：ルピナスセンター）が、医療・介護関係者（個人）が登録するLINE公式アカウント“チームルピナス”を開設し、在宅医療・介護を担う多職種からなるチームのつながりの強化に向け、他の分野への理解を深めたり、「人」や「考え」と出会う機会の情報を提供している。</p> <p>（掲載情報）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種に参加してほしい研修や講演会の案内 ・多職種に知ってほしい取組等の情報発信 ・連携に必要な情報サイト等の紹介（訪問看護ステーションの受入状況等） <p>○“チームルピナス”LINEでは、来庁や電話による相談が難しい医療・介護関係者でも、時間や場所を気にすることなく、ルピナスセンターにLINEで相談できる機能を準備した。</p> <p>【実施に至る経緯・動機】</p> <p>○医療・介護関係者の連携により、各職種の専門知識を活かしたケアプランを作成し、その人に合った在宅医療・介護を提供していくことが求められている。中でも不安の大きい入退院時に、在宅時に関わっていた専門職と病院が円滑に連携できることは、退院後を自宅で過ごせるかにも関わる重要課題である。</p> <p>○各専門職が集まる場においては、他職種の取組が分かりにくいとか、自分たちの職種内においても、情報伝達に時間がかかり、職種ごとの団体等に所属しないと情報が受け取れないなど、情報連携手段を求める意見が多く聴かれた。</p> <p>○「第1次出雲市在宅医療・介護連携推進計画（ルピナスプラン）」（令和3年3月策定）において、市に設置する「ルピナスセンター」を結節点として、情報連携を進めることを掲げ、LINEを開設することとした。</p> <p>【解決する課題の具体的内容】</p> <p>○これまで十分でなかった医療・介護連携のベースとなる多職種の人と人とのつながりづくりに向け、一緒に参加できる研修会や他職種の取組等の情報共有を図る。市がLINEを開設し、情報発信していることが、こうした場への参加の後押しとなり、多くの参加者のつながりを生むことにも期待している。</p> <p>○ケアマネジャーと医療・介護関係の多職種とのつながりを強め、ケアプランがより充実したものになれば、市民の在宅介護の不安を軽減できる。</p>		

	<p>○さらには、他の職場や職種とのつながりが少なかった若手の医療・介護関係者が、地域の中で交流し、スキルアップが図られることで、自信につながり、離職防止も期待できる。</p>
デジタルを活用した取組による成果（成果がわかるデータ・数値）	<p>○チームルピナスの人数 353人 (R4.4月末現在)</p> <p>○チームルピナスの発信数 41件 (R3.11月本格運用～R4.4月末)</p>
本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点	<p>○現在多くの人々が活用しているアプリ「LINE」を利用することで、誰もが気軽に登録し利用できるシステムとした。</p> <p>○既存のアプリを活用しているため、多額の導入経費やメンテナンスに手間がかからない。</p> <p>○情報を投稿したい職能団体の負担軽減と情報チェックを兼ねて、市の在宅医療・介護連携支援センターが情報を受付・発信している。</p> <p>○チャット機能により、時間や場所を気にせず問合せができるよう準備した。（個人情報は掲載しない。）</p>
今後の展望	<p>○発信できる情報や、チャット機能を使用した相談について、改めて周知して情報収集を図る。</p> <p>○情報収集・情報提供等のツールとして、更に多くの関係者に登録してもらい、医療・介護関係者間の連携を促進する。</p> <p>○市が、専門職が提供する在宅医療・介護連携のために求める情報を精査し、更に必要とされる情報提供ツールになるよう検討していく。</p>

「“チームルピナス”（LINE を利用した情報共有）プロジェクト」概要図

(1)現状と課題

- 他職種の情報がよくわからない
- 他職種への連絡手段がない
- 情報の伝達に時間がかかる
- 組織に属しないと情報がこない
- 支援センターの認知度を上げたい

(2)背景と目的

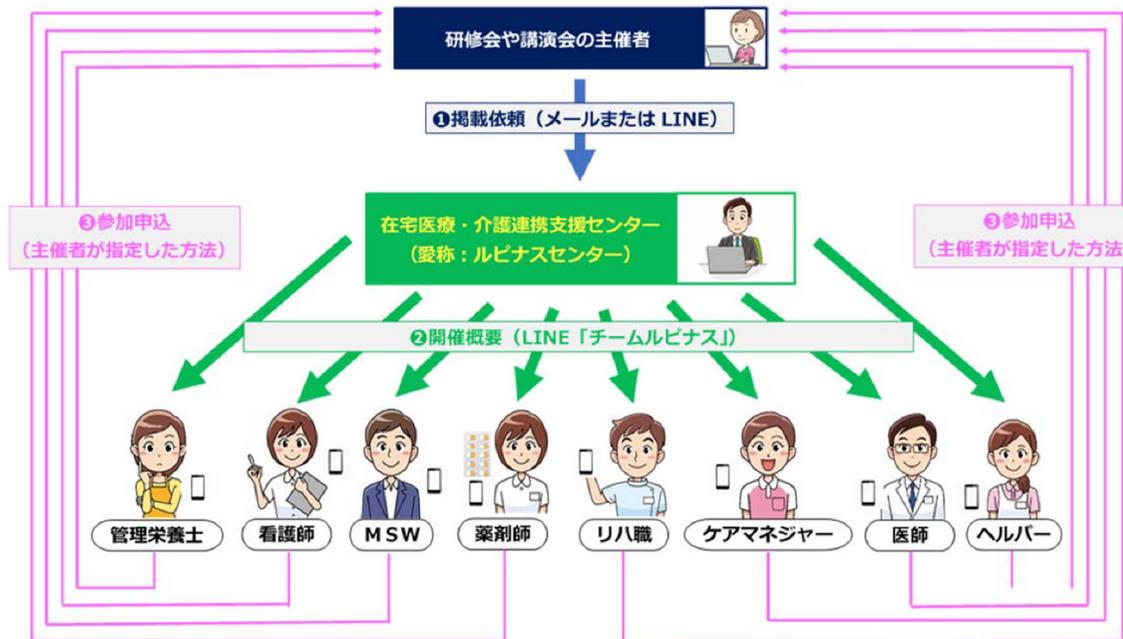
- 在宅医療と介護の連携を推進していくために、医療と介護に携わる関係者の情報共有が重要である。
- 関係者の誰もが手軽に情報を得たり、発信できる。
- 他職種を知るきっかけをつくる。
- 在宅医療・介護連携支援センターが、医療職と介護職の架け橋の役目を担っていく。

(3)事業概要

“チームルピナス”プロジェクト

- 市内の多くの医療と介護に携わる関係者に LINE 公式アカウントを登録してもらい、在宅医療・介護連携支援センターが、結節点となり、研修会等開催周知や取組の紹介をするとともに、医療や介護に関する問合せを受ける。

(4)事業の活用イメージ(研修会・講演会を周知する場合)



活用例

- (1)メッセージ投稿
 - 研修会・講演会の周知 ※イメージ参照
 - 機関紙や取組情報の発信
 - センターからの情報発信
 - 新たに調査した医療資源の情報(夜間対応の介護タクシー事業所)等の発信を行う。
- (2)タイムライン投稿(友だちに共有できる。)
 - イベントの周知
 - 広く市民の方にも参加いただきたいものを投稿する。
- (3)チャットの活用
 - センターへの問合せ等の受付
 - 普段、電話で受け付けている問合せ等を LINE でも受け付ける。問合せがいつでも気軽にできる環境をつくる。